ミュージックライフ

主要人物

伊織・・・CD ショップ店員
有原雅人・・・ロックバンド、ドラッグストアカウボーイの元ボーカル
文香・・・伊織と同じ CD ショップの店員
綾子・・・同右

1カラオケルーム　（夜）
伊織、文香、綾子。
ドラッグストアカウボーイの楽曲を熱唱している伊織。
歌い終わって、
文香「上手ーい」
伊織「全然、音外してたじゃん」
文香「歌ってー。私達のバンドでも歌ってー」
伊織「む、無理だよ・・・」

2ＣＤショップ・レジ（昼）
伊織、綾子が店番をしている。
綾子「ねえねえ、伊織、あの人、有原雅人に似てない？」
伊織、金髪の男性客に目を遣り、
伊織「全然、ぜんぜーん、似てないよ。私が何回ライブに行ってると思ってるの？」
綾子「そっかあ」
伊織「そうだよ」

3伊織の家・ＤＫ（夜）
伊織、伊織の父、伊織の母が音楽番組を見ながら、夕食を食べている。
伊織「はあーあ。つまんねー。またドラッグストアカウボーイみたいなすごいバンド出てこないかな」
伊織の母「あんた、まだそんなこと言ってんの？ドラッグストアカウボーイなんて全然売れずに解散しちゃったじゃないの？」
伊織「それを言うなっつーの。みんな見る目がないんだよ」
伊織の母「物も言いようね」
伊織「・・・」

4同・伊織の自室（夜）
椅子に座って、アコギをかき鳴らしている伊織。
伊織Ｍ「退屈な日常が続くと思っていた。あの人に出会うまでは・・・」

5ＣＤショップ・レジ（昼）
伊織、文香が店番をしている。
伊織「私、在庫整理に行ってくるね」
文香「はーい」
レジの裏に消える伊織。

次の瞬間、文香が有原雅人にそっくりな客を見つける。
文香「ちょ、ちょっと伊織」
戻って来る伊織。
文香「あの人・・・」
伊織「え・・・」
伊織の視界に有原雅人の姿が入る。
伊織「！・・・」
バイト先の店内に有原雅人を見つけ、気が動転して、固まってしまう伊織。
文香「伊織、あの人、やっぱり・・・」
一枚のＣＤを手に取り、レジまでやって来る有原雅人。
茫然自失の伊織。
伊織に代わって、文香が接客する。
お金を払う有原雅人。
文香「ありがとうございましたー！」
伊織「・・・」
去る有原。

６カラオケルーム（昼）
伊織、文香、綾子が歌わずに、席に腰かけ、話し合っている。
綾子「有原雅人に会ったぁー⁉」
伊織「（頷く）」
綾子「他人の空似とかじゃなくて？」
伊織「私が何回、有原のライブに足を運んだと思ってるの？間違いなく、本物だよ」
文香「町田出身なのは知ってたけど、今も町田に住んでたとは・・・」
綾子「ね、ね、今度、お店に来たらさ、話しかけてみようよ。知り合いになるチャンスだよ」
伊織「私、絶対無理。有原は神様みたいな存在だもん」
文香「伊織、昨日、気失いそうだったもんね」
綾子「もう一度、店に来たら、私、話し掛けてみるわ」
伊織「綾子、ずるーい」
綾子「だって伊織、自分からは話しかけられないんでしょ？」
伊織「そうだけど・・・」
綾子「私に任せなさい。有原と友達になってみせるから」
伊織「・・・」

７ＣＤショップ・レジ（昼）
店番している伊織。

伊織M「しかし、その後、有原さんは一向に姿を現さなかった・・・」

8CDショップ・裏口（夜）

伊織、文香、綾子。

文香「おつかれー。また明日ー」

三人、別々の帰路に向かう。

9歩道（夜）

歩いている伊織、近くのコンビニに入る。

10コンビニ・店内（夜）

スニッカーズを手に取り、レジへ向かう伊織。

レジでお金を支払いながら、何気なく隣のレジを見る伊織。

なんと隣のレジでは、有原が勘定を済ませている。

はっとなる伊織。

有原「お釣り間違ってない？」

店員にいちゃもんをつけている有原。

ごくりと唾を飲む伊織。

店を出てゆく有原。

慌てて、後をついて行く伊織。

11歩道（夜）

歩いている有原。

その後を追う伊織。

伊織「あ、あのー」

後ろを振り返る有原。

伊織「有原さんですよね？」

有原「・・・」

伊織の表情に緊張が滲み出ている。

12カラオケルーム（昼）

伊織、文香、綾子。

文香「有原と連絡先、交換したー?!」

伊織「（頷く）」

文香「な、何、その急展開?!」

綾子「有原とどんな話したの？」

伊織「緊張のし過ぎで覚えてない」
文香「でも、連絡先は交換したと？」
伊織「（頷く）」
文香「それってナンパじゃないの？」
伊織「そう・・・かもしれない」
文香「スマホ見せて？」
　パンツのポケットから自分のスマホを取り出す伊織。
　ラインを開く文香。
　ラインの中に、有原雅人の名前が入っている。
文香「本当だ・・・」
綾子「連絡はまだないの？」
伊織「ない。自分からする勇気もないし」
文香「伊織、結構かわいいしさ、ナンパされたんだよ。どうする？有原に付き合ってくれって言われたら？」
伊織「（答えに窮する）」

１３ＣＤショップ・レジ（昼）
　店番している伊織、綾子。
伊織「暇ですねー」
綾子「そうですねー」
　と、伊織のスマホにラインの着信が入る。
　スマホの画面を見る伊織。
伊織「有原さんからだ！」
綾子「え?!」
伊織「今夜、食事に行かないかだって！」

１４ラーメン屋・店内（夜）
　伊織と有原がテーブル席に向かい合って座っている。
伊織「感激だなー。ここって有原さんがブログに写真、載せてた店ですよね」
有原「そう。よく覚えているね」
伊織「私、有原さんのブログ、何度も読み返しているから」
　二人分のラーメンが運ばれて来る。
伊織「わー美味しそう」
有原「（笑顔）」

１５カラオケルーム（昼）

伊織、文香、綾子。
文香「ラーメン食べに行った。何味の？」
伊織「家系の。とんこつ醤油」
文香「口説かれはしなかった？」
伊織「全然、全然だよ。ラーメン食べてすぐ帰ったし」
文香「有原、ああ見えて奥手なのかも。草食系ってやつ」
伊織「有原さんの歌詞世界からはそんな風に思えないけど。結構ラブソング多いし」
綾子「ラーメン美味しかった？」
伊織「すごく美味しかったよ。今までに食べた家系の中では一番かも。今度、みんなで食べに行こうよ」
文香「有原が活動休止した理由は？」
伊織「さすがにまだそれは聞けないかな。まだ三回しか会ってないし」
文香「どうせ、レーベルから契約打ち切られたとか、そんなところでしょう」
伊織「あんなに才能ある人がＣＤ出せないわけないよ」
文香「伊織本当に好きだねえ」
微笑する伊織。

１６ラーメン屋・店内（夜）
席で向かい合って、ラーメンを食べながら、話している伊織と有原。
有原「伊織ちゃんは楽器弾かないの？」
伊織「アコギ持ってて、たまに有原さんの曲、家で弾きますけど、演奏には自信ないです」
有原「へー、弾くんだー。今度、聴かせてよ」
伊織「えー。無理ですよー」

１７伊織の家・伊織の自室（夜）
伊織と有原。
伊織はアコギを抱えている。
伊織「このシチュエーションすごく緊張するんですけど・・・」
有原雅人の楽曲を演奏し始める伊織。
演奏、終わり、拍手する有原。
有原「良かったよー、少し不安定なとこもあったけど」
伊織「・・・」
有原「ライブハウスで演奏するレベルには達しているよ」
伊織「そんな、私、人前で演奏するなんて・・・」
有原「今度、オーディション受けに行こうか？」
伊織「無理ですよー」

有原「(笑う)」
伊織「ところで、話は変わりますけど、有原さんは何で音楽活動辞めちゃったんですか？」
　有原の表情が不意に険しくなる。
有原「それは・・・秘密かな」
伊織「秘密？」
有原「そう。秘密。もっと仲良くなったら教えてあげるよ」
　有原の表情に笑顔が戻る。
伊織「・・・」

１８ラーメン屋・店内（昼）
　ラーメンを食べながら話している伊織と有原。
伊織「実は私、本当はミュージシャンになりたかったんです」
有原「・・・」
伊織「でも、自分の才能に自信が持てなくて。それで音楽の代わりに小説を書いたりしてたんです」
有原「あのさ、音楽に大切なのはさ、ここなんだよ（手で自分の胸を指し）人生は一度きり。やらなかったらきっと後悔するよ」
伊織「・・・」

１９小さなライブハウス・中（夜）
　ステージ上で、有原雅人の楽曲をアコギで弾き語りしている伊織。
　フロアではライブハウスの男性オーナーが対面して聴いている。

２０カラオケルーム（昼）
　伊織、文香、綾子。
文香「ライブハウスのオーディションを受けたぁ?!」
伊織「(頷く)」
文香「伊織、音楽活動に関しては、全然乗り気じゃなかったじゃない。何があったの？」
伊織「有原さんに触発されたのかな・・・」
文香「・・・」
　と、伊織のスマホに着信が入る。
伊織「クラブ・エイジアからだ！」
　電話に出る伊織。
伊織「はい。光山です。はい。はい。ありがとうございます。はい。よろしくおねがいします。失礼します」
　電話を切る伊織。

伊織「オーディション合格だって！」
笑顔になる伊織。

２１小さなライブハウス・中（夜）
ステージ上の伊織。
伊織「元ドラッグストア・カウボーイの有原雅人さんのおかげで、ようやくステージに立つことができました。聴いてください。ワン・デイ・ソング」
弾き語りを始める伊織。
フロアには有原、文香、綾子の三人のお客しかいない。
伊織の奏でる音楽に合わせ、身体を揺らしている三人。

２２居酒屋・座敷席（夜）
伊織と有原、文香と綾子が向かい合って、座っている。
有原「良かったよー、伊織ちゃん。特にワン・デイ・ソングが良かった。と言っても俺が書いた曲なんだけど」
一同、笑う。
伊織「お客さん、身内しかいなかったけど・・・」
文香「最初はそんなものよ」
有原「ドラッグだって似たようなものさ。メジャーデビューするのは長い道のりだった」
伊織「そんな、私、メジャーデビューなんて・・・」
有原「出来るさ。伊織ちゃんが本気になれば何だってできる」
綾子「ちょっと有原さん、酔ってませんか？」
有原「ばれた？」
一同、再び笑う。

２３ラーメン屋・店内（昼）
ラーメンを食べながら話している伊織と有原。
有原「久しぶりに俺もライブやってみようかな。弾き語りで」
伊織「ほ、本当ですか？お願いします。ぜひやってください」
有原「いやさあ、伊織ちゃんのライブに触発されたんだよ」
顔を紅潮させる伊織。

２４伊織の家・伊織の自室（夜）
スマホで有原のブログを読んでいる伊織。
「久しぶりにアコースティックライブやります」の文章とともにライブハウスの場所、日時、チケットの料金等が記されてある。

２５小さなライブハウス・中（夜）
ステージに有原。
フロアはライブを待ちわびたファンでいっぱいである。
中には伊織の姿もある。
有原「そこ詰めよっかー。まだ二三人入れるよー」
フロアがぎゅうぎゅうになる。
有原「それじゃ始めます。サニーデイズ」
弾き語りを始める有原。
○　　○　　○
有原「ここで伝えなければならないことがあります」
シーンとなるオーディエンス。
有原「俺が活動を休止した理由。みんな気になってるでしょ？」
耳をそばだてるオーディエンス。
有原「何の告知もなしに活動を休止してしまうのはちょっと無責任な気がするので・・・」
伊織も一言一句、聞き漏らさまいとしている。
有原「実は病気になりました」
ざわつくフロア。
有原「癌です」
フロアが再び静まり返る。
有原「そんな暗い顔をしないでください。治ったら、また戻って来るので」
険しくなる伊織の表情。

２６ラーメン屋・店内（昼）
ラーメンを食べながら話している伊織と有原。
伊織「有原さん、病気だったんですね」
有原「（頷く）」
伊織「でも、手術とかすれば治るんですよね？」
有原「治らないよ。昨日は場の雰囲気を壊しちゃいけないと思って言えなかったんだけど、
ステージ４なんだ。転移してる。余命一年って宣告されてる」
伊織「・・・」
有原「そろそろ行こうか？」
店を出る二人。

２７ラーメン屋・表（昼）
有原「それじゃあ」
伊織「はい・・・」

別々の道に歩き出す二人。
伊織の両目から、涙が零れ出す。
と、伊織の涙を隠すように雨がぽつぽつと降り出す。
すぐにざあざあぶりになる雨。
雨の中に突っ立って、号泣している伊織。

２８リハーサルスタジオ・中（昼）
スタジオの外で缶コーヒーを飲んで休憩している伊織。
そこへ足早にやって来る文香。
文香「伊織！」
伊織「どうしたの？文香、そんな慌てて？」
文香「ボーカルの薫が家庭の事情とか言って、うちらのバンド、脱退しちゃったんだよ。幾ら代わりを探してもいないしさ。伊織、うちらのバンドに加入してくれない？フロントマンとしてさ」
伊織「・・・」

２９小さなライブハウス・中（夜）
ステージ上、ヴォーカル＆ギターの伊織、ベースの綾子、ドラムの文香。
そこそこのお客さんが入っている。
伊織「初めまして。メザシの新ヴォーカル伊織です。よろしくお願いします」
演奏を始める伊織達。

３０伊織の家・自室（夜）
スマホで電話をかけている伊織。
伊織「あ、有原さんですか？」
有原の声「うん」
伊織「私、文香達のバンドにヴォーカルとして加入することになったんですよ」
有原の声「うん」
伊織「有原さん、一度ライブ見に来てくれませんか？」
有原の声「・・・」

３１小さなライブハウス・中（夜）
ステージで演奏している伊織達のバンド「メザシ」。
オーディエンスに混じって有原がライブを観ている。
有原の真剣な眼差し。

３２伊織の家・伊織の自室（夜）
ギターの練習をしている伊織。
伊織のスマホに有原から着信が入る。
電話に出る伊織。
伊織「もしもし」
有原の声「伊織ちゃん」
伊織「はい」
有原の声「ちょっと話があるからさ、今度会えないかな？」
伊織「大丈夫ですよ。私達のバンドどうでした？」
有原の声「会った時に話すよ」
伊織「分かりました」
有原の声「それじゃ」
伊織「はい」
電話を切る伊織。

３３ラーメン屋・店内（昼）
ラーメンを食べながら話している伊織と有原。
有原「なかなか良いセンスをしてると思ったよ」
伊織「あ、ありがとうございます」
有原「そこで一つ提案があるのだけれど」
伊織「はい」
有原「俺にバンドのプロデュースをさせてくれないかな」
伊織「有原さんが私達をプロデュース？」
有原「色々アドバイスができると思うんだ」
伊織「ぜひお願いしますって言いたいところだけど、元々文香と綾子のバンドだし、二人に訊いてみないと」
有原「考えておいてくれ」
伊織「・・・」

３４ファミレス・店内（夜）
席で話し合っている伊織、文香、綾子。
文香「有原が私達をプロデュース!?」
伊織「（頷く）」
綾子「それで、伊織はどうしたいと思っているの？」
伊織「それはぜひやってもらいたい。有原さんは私にとって天才だし。神様の様な存在だから。そんな人にプロデュースしてもらうなんて夢の様だよ」

文香「いいかもしれないね。メザシは元々遊びの様なバンドだしさ。楽しいかもしれない」
伊織「綾子は？」
綾子「私もどちらかと言えば賛成かな。有原ってなかなか良い曲書くし、一度はメジャーで活躍した人だし。売れなかったけど」
伊織「ありがとう。みんな、私のわがままに付き合ってくれて」

３５有原の家・有原の自室（夜）
伊織、有原、文香、綾子。
狭い部屋に不釣り合いなホワイトボードが置かれてある。ホワイトボードにはメザシと書き殴られてある。
有原「（ホワイトボードを拳で叩き）まずバンド名、メザシってシシャモのパクリじゃないんだから」
一同、笑う。
有原「こんなのはどうだろう」
メザシを消して、ドラッグストアガールと書く有原。
伊織「ドラッグストアガール・・・」
目を輝かせる伊織。

３６小さなライブハウス・中（夜）
ステージ上にドラッグストアガール。
フロアにはそこそこのお客が入っている。
伊織「改名しました。ドラッグストアガール一発目のライブです。私達は幸運にも有原雅人という翼を得ました。これからもっともっと頑張っていきます。私達に付いて来て下さい。よろしくお願いします。それでは」
演奏を開始するドラッグストアガールの面々。

３７有原の家・有原の自室（夜）
伊織、有原、文香、綾子。
有原「良い曲ができた。まずは聴いてくれ」
ラジカセでＣＤＲをかける有原。
音楽に聴き入る４人。
音楽、終わり。
伊織「すごい！良い曲！」
有原「この曲、タイトルはまだ無いんだけど、みんなにプレゼントしようと思う」
伊織「いいんですか？」
有原「（頷く）」

伊織「ライブでやります。絶対やります」

３８小さなライブハウス・中（夜）
有原からプレゼントされた楽曲を演奏しているドラッグストアガールのメンバー達。
オーディエンスもノリノリである。

３９ラーメン屋・店内（昼）
ラーメンを食べながら話している伊織と有原。
有原「昨日のライブも良かったよ」
伊織「ありがとうございます」
有原「やっぱバンドっていいな。俺もバンドセットでもう一回ライブしてみよっかな」
伊織「ぜひ、やってくださいよー」
有原「一夜限りのドラッグストアカウボーイ復活ライブ」
伊織「ほ、本当ですか?!」
有原「メンバーに声かけてみるよ。余命も残り少ないことだし」
伊織「（苦笑い）」

４０小さなライブハウス・中（夜）
ステージ上にドラッグストアカウボーイの面々。
フロアはライブを待ちわびたファンでパンパンである。
伊織の姿もある。
有原「今夜限りのライブです。ヒトツボシ。暴れろ」
演奏を開始するドラッグストアカウボーイ。
有原は飛んだり跳ねたりしながら、歌い出す。その様子はとても病人のものとは思えない。

４１伊織の家・伊織の自室（昼）
ギターの練習をしている伊織。
スマホに有原から着信が入る。
電話に出る伊織。
伊織「もしもし」
有原の声「伊織ちゃん、今日これからドライブに行かない？」
伊織「ドライブ？」

４２走行する車の車内（昼）
運転している有原。

助手席の伊織。
伊織「有原さん、どこへ行くんですか？」
有原「着いてからのお楽しみだよ」
伊織「・・・」

43小高い丘（昼）
立って眼下に広がる海を眺めている伊織と有原。
傍には有原の車が停車してある。
有原「ここ、海の見える丘へ行こうって曲のモデルにしたんだ」
伊織「海の見える丘へ行こう。あの曲って有原さんの実話なんですか？」
それには答えない有原。

44海辺（昼）
二人、並んで歩いている伊織と有原。
伊織「有原さん、有原さんて本当に癌なんですか？」
有原「（ニッと笑う）」

END